

事務事業名 認知症地域支援・ケア向上事業

出力日：令和08年03月16日

キーコード：1805

施策：	14	高齢者福祉の充実	財務コード	16030303-02-704
基本事業：	03	認知症施策の推進	担当部	健康福祉部
基本事業の成果指標	認知症サポーター養成数（累計） 在宅で生活する認知症高齢者の割合		担当課	高齢者支援課
			担当係	高齢者福祉担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	～		新規・継続	継続	会計区分	特別会計	実施計画		
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
認知症の方やその家族、それらを支える地縁団体や機能団体及び医療・介護関係者			<p>○認知症の早期発見と早期治療で重症化を予防し、住み慣れた地域での在宅期間を延伸するために、筑紫医師会が主体的に取り組んでいる「ものわすれ相談事業」に対して、筑紫地区5市で協働して補助を行い、認知症及び医療・介護連携に係る地域包括ケアシステムの推進を図る。</p> <p>○認知症の方やその家族を支援するために、筑紫野市介護を考える家族の会（市民ボランティア団体）の主体的な取り組みに対して、市として協働し、相談・つどいなどの地域における支援体制の構築を図る。</p>						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）									
認知症の容態に応じて、必要な医療・介護及び生活支援サービスが連携し、効果的な支援が行われるようネットワークが形成され、それぞれが安心して共生できるよう、認知症の方やその家族及び地域への支援体制が整う。									
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	05年度 実績	06年度 実績	07年度 当初	08年度 要求	09年度 計画	10年度 計画	目標
ものわすれ相談医（新規登録数）		人	0	0	2	2			2
ものわすれ相談数		人	2,561	2,861	2,500	2,500			
5. コスト									
事業費		計	千円	188	433	536	11,810		
		国	千円	72	167	196	3,907		
		県	千円	36	83	98	1,954		
		地方債	千円	0	0	0	0		
		その他	千円	0	0	0	0		
一般		千円	80	183	242	5,949			
正職員人工数		人工	0.2	0.4	0.4				
正職員人件費		千円	1,563	3,209	3,352				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	1,751	3,642	3,888	11,810			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		<p>【状況】筑紫野市におけるものわすれ相談医の新規登録は0だが、相談数は増加している。 【原因】ものわすれ相談医の研修が実施されているが、新規で参加する本市の医師いなかった。相談数の増加の原因は不明だが、ものわすれ相談医のポスター掲示等の周知も影響している可能性はある。</p>							
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし						
手段効率化余地	あり	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	あり						
成果向上余地	中程度								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）					改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
身近なかかりつけ医によるものわすれ相談は認知症の早期発見・早期治療に繋ぐ事業として継続する。令和6年度より、認知症高齢者が行方不明時に早期に発見できるよう見守りシールの推進を行っている。									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）					備考・特記事項 or 進行管理欄				
今後増大が見込まれる認知症患者に対する施策の一環として、高齢者が住み慣れた地域や家庭で安心して暮らせるまちづくりを推進する目的で、認知症の早期受診及び早期治療が可能となるよう、平成23年度より筑紫医師会が行うものわすれ相談事業を補助するため、筑紫地区と筑紫医師会とで協定を締結した。					高齢者が受診しやすいよう専門医だけでなくかかりつけ医で、認知症の診断及び治療ができるものわすれ相談医を増やす。				